

『日本の基準、確かな品質。JASマーク』

— 増えてきた精米 JAS 認証事業者 —

精米 JAS 認証をめざす事業者が増えてきました。先日、大手事業者の複数の工場が認証を取得しました。輸出する精米にマークを付すことを予定する認証事業者もあります。製品に確かな品質を表す JAS マークが付くことで、海外とのスムーズな取引の実現が期待できるとしています。

現在、200を超える事業者が精米 HACCP に取り組んでいますが、高い水準で継続して製品の安全性が確保されてきたことから、いま、事業者の関心と意識は精米 JAS 認証に寄せられています。認証事業者になることで、製品に付される JAS マークの有無にかかわらず、製品の信頼性が高まるというのが理由です。

2025年は、米不足によって、はじめて備蓄米が主食用として販売され、同時に外国産米やブレンド米も店頭に並びました。これを機に、消費者の品質への関心が高まっていくものと思います。

HACCPと共に JAS の取り組みによって、「安全」と「品質」を備える食品として消費社会に認識されることになるでしょう。

『日本の基準、確かな品質。JASマーク』

これは、先般、精米 JAS の普及と訴求のために国が定めたキャッチフレーズです。マークと一緒に表示使用が可能です。

2025年12月

一般社団法人日本精米検査認証協会

会長 飯野輝明